

クイズ形式で学ぶ謎田博士の科学トピックス解説

生物多様性ってなんだ？

最終回 目を地球全体に向けよう

鈴木 譲

生物の多様性を通じて世界と自分のむすびつきについて学ぶ連載。今回は、生物多様性条約の今後についてのクイズが出てきます。謎田博士といっしょに解きながら考えます。(編集部)

生物の現状は？

さて、最終回は総仕上げとして、生物多様性条約の今後に横たわる問題点について明らかにしてみよう。ちょっとむずかしい議論じゃが、現代に生きる者として考え、共有していかないといけない課題じゃ。

第16問

生物多様性に対する脅威は、「生息地の破壊」だ。もう1つ忘れてはならない要素がある。日本では「ブラックバス」に代表されるのじゃが、はたしてなんだろう？

- ①狩猟や漁業における乱獲
- ②外来生物の導入
- ③販売目的の養殖

【解答と解説】正解はもちろん②じゃ。ブラックバスが琵琶湖などで在来の魚種を捕食して絶滅もしくは絶滅寸前まで追い込んでいることはよく知られている。

こういった外国から持ち込まれた「帰化生物」が、食物連鎖の関係を狂わせ、本来の生態系を破壊していくことはよくある。安易に外国産の生物を飼育・栽培すると、それが逃げ出して野生化する危険があるので、注意が必要じゃ。諸外国ではかなり厳しい規制をもうけて自然生態系への外来種の侵入を抑えているが、日本ではまだまだ危機感が足りないな。



<http://www.usda.gov/oc/photo/94cs3895>

第17問

IUCN(国際自然保護連合)がまとめた2009年版のレッドリストには、絶滅の恐れがある生物種が記載されている。さて、その数はどのくらい？

- ①約170種
- ②約1,700種
- ③約1,7000種

【解答と解説】残念なことに、正解は③じゃ。そのうち動植物がそれぞれ約半数を占める。また日本の環境省によると、日本国内でも約3000種が絶滅の恐れあり、ということじゃ。この絶滅スピードは、なんとあの恐竜が滅亡した時代よりもはるかに速いといわれている。その原因のほとんどは開発・乱獲・外来種持ち込みなど人間の活動によるものじゃ。この流れをなんとかしないととんでもないことになるぞ。

第18問

COP10で対立した「先進国」と「途上国」の利害とはどこにあるのだろうか？

- ①生物保護区の拡大について
- ②保護すべき生物種の選定について
- ③生物資源から得られる利益の配分について

【解答と解説】正解は③。日本などの先進国は、途上国からさまざまな生物資源を持ちだし、それを食糧や工業原料として利用して多大の利益を上げてきた。ところが、それらの利益は資源を持ちだされる途上国側にはわずかししか配分されていない。その公平な配分を法的拘束力のある条文として議定書に盛り込むことを途上国側は要求した。当然、先進国側は企業の利益に配慮してそれを拒否しようとする。そこがCOP10の最大の争点だったわけじゃよ。最終的には議事録に「途上国側の主張を記録する」ことで決着を見たわけだ。今後、その精神ががいかに生かされているか、監視が必要じゃな。

みんなはどうする？

さて、ここからはみなさんの実践に関する問題じゃ。

第19問

さて、次の行動のうち、「生物多様性の保全」に役立つものはどれだろうか？

- ①国産品をなるべく利用する
- ②バス釣りにおける「キャッチアンドリリース」
- ③希少種のペットを飼育して増やす

【解答と解説】正解は①。国産品を利用することは、外国における資源の乱獲や乱開発を間接的に抑止し、外来種が野生化することの予防にもなる。バス釣りに関しては、「キャッチアンドキル」が原則なのはいうまでもない。ましてや、生息していない湖沼に放すなんてのは言語道断だ。在来の希少種を飼育することは法律に触れる可能性が大きいし、外来の希少種をうっかり野生化させると生態系に悪影響を与えるんじゃないぞ。

さあ、最後の問題には選択肢がないぞ。

第20問

生物の多様性保全に地球温暖化が大きな脅威となっているが、今日からでもあなたが実践できる「地球温暖化防止」活動。それをいくつでもいいから挙げてみよう。5個以上いえたら正解じゃ。

【解答と解説】一例じゃが、目的地までなるべく歩く、マイカーでなく公共交通機関の利用、冷暖房の節約、電灯などのつけっぱなしをしない、空き缶やペットボトルのリサイクル、マイバッグ、チランなど裏紙の利用、食べ残しをしない、…まだまだありそうじゃな。

さあ、20問のクイズ、みなさんの成績はどうじゃったかな？

成績がよかった人は、今後生物学や現代社会についての知識を伸ばすと同時に、具体的に地域環境・地球環境に役立つ実践をしていってほしいものじゃ。

成績が不本意だった人は、もっと生物学や最新ニュースに関心を持つようにし、地球環境問題に対する興味・関心を育てていってほしい。

新聞やテレビのニュース、インターネットなど、調べればいくらでも資料は集まるし、いろんな学習会・講演会・観察会・自然保護活動なども行われている。

さあ、もっと目を外へ、地球全体に向けようじゃないか。(おわり)

(すずき ゆずる・兵庫県立神戸特別支援学校教諭)

